

秋田県美郷町議会親善訪問報告書

■派遣内容

- ・派遣期間 令和7年7月7日（月）から7月8日（火）まで
- ・派遣場所 秋田県美郷町
- ・派遣議員 鈴木 隆之、松本 洋之、えびさわ 圭介、中坪 悦子、天坂 大介、
末安 広明、鈴木 ゆみ、あまの 雄太、佐藤 伸、杉山 こういち、
須藤 英児、伊藤 つばさ、平野 春望、奈須 利江

■訪問の概要

本区と「友好都市提携」及び「災害時における相互応援に関する協定（防災協定）」を締結して20周年を迎える美郷町及び美郷町議会との友好・親善の促進を図るため、親善訪問を行った。

2日間にわたる訪問では、松田知己町長、森元淑雄議長をはじめ美郷町議会議員の皆様から温かい歓迎を受けた。

美郷町宿泊交流館ワクアスで行われた美郷町と大田区の議会意見交換会では、町の防災対策について、美郷町議会基本条例の施行について、情報共有をいただいた。町内視察では、美郷町宿泊交流館ワクアスと飛翔館、美郷ラベンダー園、道の駅美郷、六郷わくわく園を丁寧に案内いただいた。特に、六郷わくわく園では、こどもたちが園でのびのび過ごす姿を拝見でき、5歳児によるサプライズのお神輿と元気な踊りに感動した。

今回の親善訪問は、温かいおもてなしを受け、大変有意義で実り多い訪問となった。友好都市締結から20周年の交流を相互に感謝するとともに、今回の交流を通じて相互に発展していく可能性と両議会の友好の絆を更に深めていくことを改めて確認できた。

■訪問先

美郷町宿泊交流館ワクアス、飛翔館、美郷ラベンダー園、道の駅美郷、六郷わくわく園

■参加議員の感想

・本区の友好都市である秋田県美郷町へ親善訪問を行なった。平成17年11月5日、大田区と美郷町は「友好都市提携」と「災害時における大田区と美郷町との相互応援に関する協定」を締結し本年で20周年を迎え、記念すべき年に訪問をすることができた。到着後、美郷町宿泊交流館ワクアスにご案内いただき、隣接する飛翔館と併せて両施設の概要と交流の歴史についてご説明をいただいた。その後美郷ラベンダー園を見学後、夜は美郷町議会の方々との懇親会を行なった。



美郷町からの歓迎を受け、鈴木議長の挨拶

その際、美郷町議会の方々をご用意くださった演目の中で、スコップを三味線に見立てた「スコップ三味線」ならぬ出し物に急遽登壇することになり、大変賑やかで和やかな中、親交を深めることができた。翌日は六郷わくわく園に伺い、認定こども園における幼保連携の取り組みを視察した。園児達の可愛らしくも力強いおもてなしの演技も見ることができ、心温まる視察となった。2日間の短い訪問であったが、これまでの交流の歴史と今後の展望を語り合いながら交流をさらに深めることができ、非常に有意義な訪問となった。（鈴木隆之議長）

・「災害時における大田区と美郷町との相互応援に関する協定」締結から 20 周年を迎える節目として、秋田県美郷町を訪問いたしました。本協定は、災害発生時における相互支援体制を確立し、都市と地方の連携を強化することを目的に、平成 17 年（2005 年）に締結されたものです。今回の訪問は、友好関係の更なる深化と、災害対応力の向上に向けた意見交換を目的とし、大田区訪問団の一員として参加しました。今回の訪問を通じて、災害時における都市と地方の連携の重要性を改めて認識しました。美郷町では、地域のつながりを基盤とした防災活動が根付いており、大田区においても、地域防災力の向上のために参考となる多くの知見を得ることができました。また、20 年という長きにわたり続く友好関係が、単なる形式的な連携ではなく、互いの信頼関係に基づいた真の協力体制であることを改めて実感しました。大田区においても、広域的な災害対応力の強化とともに、平時からの関係構築をさらに深めていく必要があります。本協定の精神を活かし、今後も定期的な交流と情報共有を継続するとともに、住民同士の交流の機会創出にも努めるべきと考えます。（松本洋之副議長）



宿泊交流館ワクアスでの意見交換会

・今回の訪問は大田区の六郷と美郷町（旧六郷町）の交流が始まり 20 年という節目の年となる記念すべき親善訪問となった。美郷町議会へ訪問の際に説明を受けた、本年 4 月より運用開始となった秋田朝日放送のデータ放送を利用した美郷町テレビ回覧板はテレビ版のホームページのよう



データ放送を利用したテレビ回覧板

で、パソコンやスマートフォンに馴染みのない高齢者への情報発信には有効と考える。防災対策に関する説明の中では、近年地方都市部に目撃が頻発しているクマ目撃情報を注意喚起する町公式ラインで文字情報に Google マップへのリンクをつけて位置確認ができ、ピンポイントで警戒を促すことは、町民の命を守る為には大変重要な取り組みであると感じた。大田区でも「区民安全・安心メールサービス」にて不審者等発生情報等住所で分かりやすい提供があるが、選ばれる自治体を目指す大田区としては、新たに住み暮らし始めた人たちが、スマートフォンなどの普及、地図アプリの充実から、「そんな住所を入れて調べれば良い」との声も聞かれそうではあるが、土地勘の無い方たちには地図での表示は有効だと考える。（えびさわ圭介議員）

・ 7 月 7 日から 8 日の 2 日間で友好都市の秋田県美郷町を訪問した。美郷町では、令和 7 年 4 月 1 日より「美郷町テレビ回覧板」という行政サービスが運用開始となった。これは秋田朝日放送のデータ放送を利用した、新たなデジタル媒体での情報発信ツールとして、防災・イベント・くらし・観光・行政情報・健康・福祉・子育てに関する情報を最大 20 項目の広報情報を表示できるものである。広報情報は毎日、美郷町総務課の職員が送信している。本文は 500 文字で入力可能で、運用開始の 4 月 1 日から 7 月 7 日までで 62 件の情報発信を行っている。費用は月額 5 万 5 千円、年間 66 万円と安価である。大田区においても、蒲田西口デジタルサイネージが今年度より運

用開始となった。3ヶ月ごとに番組編成を更新するが、リアルタイムな情報を発信するという点では若干の物足りなさを感じる。この美郷町テレビ回覧板を参考にしたケーブルテレビとの連携についても模索したい。(中坪悦子議員)

・大田区は秋田県美郷町と平成17年に「友好都市提携」及び「災害時における相互応援に関する協定(防災協定)」を締結し、本年で20年の節目となる。今般説明を頂いた内容の中で、同町で本年4月から開始された、秋田朝日放送のデータ放送を活用した「美郷町テレビ回覧板」について特に関心を持った。スマートフォンの操作が苦手な方や、インターネットに馴染みの少ない方に対して、テレビのリモコンを操作するだけで町からのさまざまな情報が得られることは、特に



飛翔館の館内視察

高齢者人口が増加していく中にあるのは確かに有効な施策であると考えます。加えて、テレビリモコンの操作が非常に簡易であることもまた、効果的な情報の頒布に資するものである。大田区では現在、防災ポータル、防災アプリ、またホームページ等によりさまざまな媒体を通じて防災情報の発信に鋭意努めているが、美郷町の当事例は、区の今後の方針に関する選択肢を検討する上での、参考事例としたい。(天坂大介議員)

・友好都市締結20年の節目となる交流の意味を改めて感じる訪問機会であった。昨今、全国的な課題となった米騒動はこの地では無縁であり、今後こうした状況が続いた場合には、助けていただくことはできますかと質問を投げかけたところ、そういう時こそその繋がりだと思っている。その時は遠慮なく声をかけてほしいとの回答であった。こうした協定のあり方についても、今後さらにブラッシュアップしていくべきと感じる。また今回は認定子ども園(幼保連携)の町立六郷わくわく園を視察させていただいた。広大な敷地にある木造校舎の中で、0歳から5歳児までが余裕のある空間でのびのびと育ち、また手厚い職員体制で運営がなされていた。規模感は小学校並みである。本区的环境を思うと、果たしてこの環境の違いが子どもたちの将来にどのような影響を及ぼすのか、考えてしまうところである。同じことは実現できないまでも、今一度、あるべき子育て環境について問うていきたいと感じる貴重な機会となった。(末安広明議員)



六郷わくわく園の視察・説明

・本年、本区と秋田県美郷町が友好都市および防災協定を締結してから20周年を迎えたことを記念し、「美郷町議会親善訪問団」の一員として秋田県美郷町を訪問した。歓迎セレモニーでは、町長より、大田区から貸与された川瀬巴水の展示会開催を通じ、平時から本区との美術交流が続いており、身近な存在として感じているとの心温まる話を伺った。また、秋田朝日放送のデータ放送を活用した「美郷町テレビ回覧板」の運用が令和7年4月から開始されたとの事業説明も受けた。行政協力委員の高齢化に伴い、紙の回覧板から移行したものであり、テレビにより誰もが簡単に情報を得られ、費用も紙の半分以上と高い効果が得られている。今後はさらなる周知を図り、

多くの町民が情報を取得できるよう取り組んでいくとのことであった。本区においても、高齢化やデジタル格差に配慮した情報伝達手段の整備が求められており、誰もが安心して情報を取得できる環境づくりを推進していきたい。(鈴木ゆみ議員)

・このたび、親善訪問団の一員として、秋田県美郷町を訪問いたしました。昨年に引き続き、自然豊かな美郷町を訪れる機会をいただき、町議会の皆さまとの交流も深まり、友好都市としての絆の大切さを改めて実感いたしました。今回の訪問では、特に「ラベンダーを活用した観光振興の取り組み」が印象に残りました。前回の訪問時には、ホワイトラベンダーの栽培や商品開発の経緯について伺いましたが、今年はその活用がさらに進み、新たな展開を見せていることに驚きま



美郷ラベンダー園の視察・説明

した。美郷町独自の酵母「美郷雪華」を活用した化粧品の開発など、民間企業との事業連携協定のもと、地域資源を活かした取り組みが着実に進められています。こうした地域の魅力を生かした商品が今後さらに増えていくことが期待され、大田区としても、友好都市の商品を区内でPRすることで、美郷町をより身近に感じていただけるような取り組みを進めていきたいと考えております。

(あまの雄太議員)

・私は美郷町へは今回の訪問が3回目となります。美郷町議会との意見交換・交流では、防災や子育て支援等で力を入れている事を学びました。特に人口減少が進む中で、全国的に問題になっている熊の出没も増加しており、訪問中にも熊の出没情報が防災行政無線で流れるなど身近で深刻な状況であることを実感しました。そんな中で美郷町は秋田朝日放送のデータ放送を利用した「美郷町テレビ回覧板」を4月1日から運用を開始し、町民がお家のテレビから災害情報など美郷町からのお知らせを見ることができるようになりました。大田区でも水害情報など災害情報の区民への情報発信が課題であり、美郷町の「テレビ回覧板」はそのツールの一つとして可能性を感じました。また、2022年には防災ハザードマップを大田区同様に全世帯に配布しましたが、大田区のハザードマップと比べてとても大きな版で、いろいろと検討し工夫したことが読み取れました。(佐藤伸議員)



美郷ラベンダー園（美郷雪華前）にて

・美郷町議会の取り組みでは、情報を SNS だけではなく、SNS を使えない方々にも伝えるために、テレビ回覧板を秋田朝日放送局と提携しお伝えしていることには関心を持ちました。テレビがあれば AAB5 チャンネルで d (データ) ボタンを使い閲覧できる仕組みは高齢者にとって操作は簡単であり扱い易いと感じました。ただし、閲覧件数を把握していないので、どのくらいの方が閲覧しているのか把握する仕組みが必要と感じました。美郷町宿泊交流館ワクアスは最大 51 名宿泊可能な多目的研修室及び、アリーナが併設された施設であり、大田区では「青少年交流センターゆいっつ」が同様の宿泊施設にあたるのでしょうか。飛翔館では、飛翔館の展示品と紹介に興味を持ちました。1976 年の 4 月から放送の NHK 朝ドラマで、「雲のじゅうたん」でロケ地が秋田で、ヒロイン役の浅茅洋子さんが日本初の女性パイロットをめざし、のちに東京都大田区の羽田の飛行場を飛び立つが、日本での女性初とはならなかったとの記憶がありました。大田区と美郷町の関係はその時代からあったのではないのでしょうか。美郷ラベンダー園の視察と観光振興の取り組みでは、ホワイトラベンダー・美郷雪華から抽出したフローラルウォータを使用しルームフレグランス等を特産品として開発した取り組みなどを紹介していただき、現場で清涼感があるラベンダーの香りを実体験しました。認定こども園（幼保連携）の取り組み、意見交換では、六郷わくわく園に希望する児童が入園できており町内の他の二園と連携をして、待機児童はゼロとなっている。広いスペースで児童たちが健やかに育っていることが視察できました。（杉山こういち議員）



宿泊交流館ワクアスの視察

・今回の訪問により、我々大田区民と美郷町議会及び美郷町の方々との友好関係が一層深まりました。美郷町に住み暮らす方々、職員・議員の方々から、災害時の対応、クマ対策、テレビ回覧板、美郷雪華、認定こども園、湧き水とニテコサイダー、あきたこまちやサキホコレなど、様々な事を教えて頂きました。道の駅美郷の人気商品ベスト 3 は、1 位は花、2 位は漬物、3 位は野菜との事です。売上高ベスト 3 は、1 位は米、2 位は酒、3 位は惣菜との事です。道の駅美郷は野菜や果物、米や花、総菜、菓子や民芸品など各種土産もあり、活気にあふれていました。売り場をもっと広くして欲しいとの要望もあるとの事です。クマ対策は、自宅のまわりに食べ物を置かないなど、クマを寄せ付けない基本的な対策が必要との事です。クマは頭部を第一目標として攻撃するため、クマによるケガは頭部に集中 (81.5%) します。クマと遭遇したら、まず頭部を守る事が重要との事です。（須藤英児議員）

・ 7月7日～8日、大田区と友好都市 20 周年を迎える秋田県美郷町へ親善訪問を行なった。美郷町の観光地であるラベンダー園についての取り組みとして、ラベンダーの開花時期が終了後は破棄していたものを現在は小川香料に販売しており、事業提携を行なっているとのこと。小川香料は安価で原料を入手する代わりに、素材を使った香料製品の開発を行なっている。大田区内にも国内最大手の高砂香料工業（株）本社があるため、地元企業として連携できていたら、より深い関係が構築できたと思う。また認定こども園の視察では、広々とした敷地、施設環境で子どもたちや先生も伸び伸びと過ごしている様子が伺えた。美郷町内には 3ヶ所の認定こども園があり、私立を含めその他の幼稚園・保育園はない。集約されているからこそ、行政としても力を入れやすい面もあると感じた。美郷町議会議員の皆様との交流では、全く環境の異なる自治体同士だからこそ、その違いで会話が弾んだ。国内でもお米の高騰や供給不足が問題となっているが、美郷町は有数の米所であるため、給食などのサプライチェーンを構築し、さらなる関係強化を図りたい。（伊藤つばさ議員）



美郷ラベンダー園の収穫風景

・ 美郷町と大田区は、平成元年、大田区の六郷地区の西六郷少年少女合唱団が美郷町（当時の六郷町）を訪れ演奏会を開き、地名が同じであることをきっかけに交流が始まる。平成 17 年 11 月に友好都市になる。美郷町の面積は 168.32 km²、人口は 17,312 人、世帯は 6,608 世帯。7月7日の初日は、美郷町宿泊交流会館ワクスと飛翔館を視察。町の防災対策について、特に回覧板の代わりに新たなデジタル媒体として、「美郷町テレビ回覧板」を令和 7 年 4 月 1 日から運用開始。費用は月額 5 万 5 千円、年額 66 万円で印刷代の半分以上の費用で済むということでした。また美郷町議会基本条例についての説明も受ける。二代表制の下の議会の役割を明らかにし、議員の



六郷わくわく園の館内

研修の充実により議員活動の改善を図るなど、町民との意見交換会を促進している。東京 23 区でまだ 4 区しか制定されていないが、全国 1027（57.4%）の自治体では制定されている。大田区でも議会基本条例の制定に向けて、議論すべきと感じた。その後、美郷ラベンダー園を視察。夜は美郷町議会の皆さんとの交流会があり、様々な意見交換が出来て有意義な時間が過ごせた。7月8日の二日目も道の駅美郷や認定こども園の六郷わくわく園の視察させて頂き、産業振興や幼保連携の取組について意見交換をした。（平野春望議員）

・ 美郷町議会を訪問して、令和 6 年に可決、施行している議会基本条例について伺いました。興味を持ち、美郷町議会選挙の投票率を調べました。2002 年の 86%に比べ、減ったとはいえ 66%で、大田区の 46%に比べ、極めて高い投票率で驚きました。議員一人当たり有権者数で比べると、美郷町千人/人に対し、大田区は 1 万 2 千人/人なので、人口規模の違いかと思いましたが、秋田

市は7千人/人で大田区より低い44%なので、地方や人口ばかりが理由では無さそうです。議会基本条例の説明や交流から、日ごろの町や議会の活動や市民の暮らしぶりを知り、見過ごしてはならないと思いました。一次産業人口は2割。見学した幼保一元化施設での説明から、0～2歳の保育園幼稚園に在籍しない子の割合は約3割で、大田区の2割を上回っています。近年、区も育休をとる方が増えているそうです。豊かな自然、時間と経済の調和のとれた暮らしぶり、働き方が、大田区でも広がってほしいと思いました。(奈須利江議員)



六郷わくわく園の正面玄関前にて